

# みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2002/06/27 Vol. 101 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX  
45-8362

E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

## 印西市議会/平成 14 年第 2 回定例会報告 ( 2 )

いつもお世話になっております。印西市議会(6月定例会)は、21日(金曜日)で閉会しました。6月議会での私の一般質問と市当局の回答を中心にご報告をさせていただきます。

6/7(金曜日)に、代表質問に立ちました。以下、市当局の回答です。

### 3. 牧の原駅圏の将来について

(2) 都市基盤整備公団では、(仮称)牧の原駅圏活性化研究会の設置が検討されていると聞く。

(あ) 具体的にどの住区を対象と考えているのか。

(い) 現在、実際に牧の原地区の居住者の参加は必要だと考えるが、どのような認識をもっているのか。

(回答/市長)この研究会は、各種規制にとらわれることなく民間の幅広い発想を結集し、国際性、機能性に富んだ「まちづくり」を戦略的にすすめるため、現在、新住事業者において、具体的な運営方法などにつきまして、検討されているところです。

ご質問の具体的に「どの住区を対象と考えているか」ということですが、具体的には、牧の原駅圏全体を見つつ、主に牧の原駅北側を中心にする住区で、これまで整備が進んでいない区域を対象とするということ聞いております。

次に「牧の原地区の居住者の参加は必要と考えるが、どのような認識をもっているのか」ということですが、この研究会の構成メンバーにつきましては、現在、新住事業者において、検討が進められており、案としては、学識経験者、経済産業界、行政及び新住事業者等とされているところです。しかしながら、この研究会を進めていく上では、何らかの方法で居住者の意見聴取が必要になると考えますので、居住者の参加の機会や参加の方法等につきましても検討を加えていただくよう新住事業者に要請して参りたいと考えております。

### 「平岡自然公園の現在と今後」

今回の6月定例会で、「平岡自然公園」についての議員からの質疑がされました。

執行部からの回答、現状と今後をご報告いたします。

印西市平岡自然公園建設予定地の21ヘクタール(約7万坪)は、用地買収がすでに終わったものの、計画見直しのため中断していました。このたび計画は「縮小して見直されました。」見なおし内容として、計画人口を当初の27万8千人から22万3千人に、目標年次を2013(平成25)年から2020(平成32)年に、火葬炉8炉から6炉に。待合室8室から6室に。斎場=3室、遺族控室=3室、僧侶控室=3室に。墓地=6000基から4900基に変更するものです。また、地元還元施設として少年自然の家(1,000㎡木造平屋建て)=当初の宿泊施設と体育館という計画を研修施設および管理施設を創る計画に変更。多目的グラウンドは当初のテニスコート、ゲートボール場を作るという計画を変更して、サッカー、ラグビー等に対応した施設とすることに。キャンプ場の設置計画をフィールドアスレチックや林間散策路を建設するというものに変更する。

今年度は開発許可申請と実施設計を行い、来年度に造成、建築工事、平成17年度には供用を開始する予定です。

>> この施設は印西市、白井市、本埜村、印旛村の共同施設です。

## 「市町村合併」どう考える？（２）

6月議会では、多くの議員より、市町村合併についての一般質問が提出され、市から今後についての答弁がされました。市では、7月以降、以下のようなことを考えております。

- \* 市民に市町村合併に関しての情報を提供するために冊子を配布する。
- \* 市民の意見を聞き、今後の指針を考えるために、市民3000人を対象（無作為抽出）にアンケートを実施する。

なぜ、政府は市町村合併をすすめるようとしているのか？

ひとことで言うと、「国の財政が逼迫（ひっぱく）してきたから」です。

～マイナス経済成長のもと、税収が減り、国の財政状況は一層悪化してきた結果、地方に交付している財源（地方交付税）が非常に窮屈になってきております。

（今年度、印西市では、市の運営のために年間9億の交付税を国より受けております。この金額は今年度の予算額に対して4.6%を占めます。しかし、印西市では、今後3年程度で自主財源（独自の収入のみ）で運営できる見込みですから、「地方交付税」の「不交付団体」となりますので、交付税の減額が合併の理由にはなりません。）

また、合併をすすめる理由は、行政効率のスリム化を図ろうとする狙いもあります。

合併に反対ですか？ 私は決して合併に反対しているわけではありません。合併問題は地域の将来を大きく左右する重大な案件です。どうするのがいいのか、市民の皆さんに情報を提供して考えるべきだと思います。また、合併に関しては、会派「まちづくり研究会」(代表/松本隆志議員)では、「住民投票条例」を提唱しております。

合併については、どの市町村と一緒にするのか、大きな問題があります。

中心的な自治体とその周辺自治体が合併する場合と比べ、力が拮抗する自治体同士の合併は困難を伴います。どちらもリーダーシップをとれず、市の将来像がバラバラになってしまい、合併したことがかえって市の発展を妨げる結果になることがあるからです。一例として（戦前の例ですが）京都府舞鶴市の例を挙げます。

平成7年2月1日付け「京都新聞」(「舞鶴の課題」より)

### 「東西の対抗意識 半世紀を経て消えず」

舞鶴は山を境に、東地区（5万5千人）と西地区（4万人）に分かれる。

古い城下町・西地区に対し、明治34年の海軍鎮守府開設後に市街化した東。

やがて舞鶴市と東舞鶴市になったが、効率化を求める軍の意向で昭和18年5月、

合併した。戦後、その反発から西地区が独自に住民投票で分離案を可決。

市長辞任のなか、舞鶴は最終決定権を待つ府に移り、府議会の逆転否決で決着した。

その後も火ダネは消えない。今回の市長選でも、何人かの出馬がうわさされたが、そのつど相手方地域の動向が話題になった。

施策面でも、東に新図書館ができれば、強い要望で西にも1年半後完成。

文化公園体育館（西）完成で、東体育館の化粧直し。

総合文化会館（東）を意識して西にホール建設の要望が高まれば、市民会館の大規模改修という具合。

成人式も消防出初め式も、毎年東西交代で開催。バランスへの配慮だ。

それでもなお「引揚記念館に赤れんが博物館、火電PR館。人が集まる施設は東ばかり」

「東市街地で昭和30年代に完成した下水道が、西は今年5月にやっと一部供用」

（西地区のまちづくり団体関係者）の不満が出る。

--> 印西市では未来に遺恨を生むような合併は絶対にすべきではありません。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。次回も6月議会のご報告を中心にご連絡させていただきます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と考えていきたいと思っております。よろしく願い申し上げます。

ぐんじとしのり